

全国で初めての事例！人物を点描表現した弥生時代土製品を展示！

第 22 回文化財資料館企画展

「東奈良遺跡発見 50 周年記念 - 弥生集落と銅鐸生産 - 」を開催

1. 経緯

文化財資料館は今秋、日本で唯一完全なかたちを保った銅鐸の鋳型など数多くの弥生時代の鋳造に関連する遺物が出土した東奈良遺跡が発見されて 50 年を迎えることを記念して、企画展を開催する。

展示は、東奈良遺跡から出土した優品を中心に、弥生時代の集落や生活の様子、銅鐸の生産について紹介する内容であり、具体的な展示遺物は、全国で唯一の完全な形を保った銅鐸鋳型、日本最古の説もある東奈良小銅鐸、弥生時代に使用された土器、石器、木製品など弥生人の生活を示す遺物等である。

これらの遺物とともに、初めての事例となる「点描で人物を表現した弥生絵画(土製品)」を展示する。この資料は近年進めている過去の東奈良遺跡出土資料の再整理のなかで、その存在が明らかとなった。様々な絵画土器が出土する弥生時代のなかでも、非常に特異な人物表現であり、弥生人の精神世界を考えるうえで貴重な資料であり、多くの方々に知っていただきたいと考え、今回の報道提供にいたった。

2. 展示期間

令和 3 年 9 月 25 日 (土) ～11 月 29 日 (月)

開館時間：午前 9 時～午後 5 時 休館日：火曜日 (11 月 23 日を除く)、11 月 4・24 日

3. 場所

茨木市立文化財資料館 (大阪府茨木市東奈良三丁目 12-18)

4. 主催・協力

主催：茨木市教育委員会

協力：大阪高速鉄道株式会社 (大阪モノレール)

5. 点描で人物を表現した土製品の概要

出土遺跡：東奈良遺跡

調査地：東奈良三丁目 418-1 他

調査期間：2002年6月24日～9月5日

調査要因：共同住宅の建設

調査面積：280 m²

出土遺構：包含層

「点描表現の人物」の土製品は、円板の形をした土製品（直径 8.3cm、厚み 1.7cm）の凸面に点描で人物を表現している。点は直径 1mm 程度で、ハリ状の工具で刺突したものと考えられる。断面で観察できる刺突を見ると、4mm 程度の深さである。人物頭部の上部については欠失しているが、ほぼ全体像を推測できる。腕を折り曲げ、両手を挙げている。右手と欠失した頭部上部の間にある点描については、耳や頭の飾り、3本指を表現した可能性を想定できる。断定は難しいものの、右手との間に空白を認めることができるため、頭もしくは耳飾りの蓋然性の方が高いものと思われる。また、左手の最も手先側の点は半分、欠失している。脚部の間には「V」字状の線刻があり、その中央に1条の線刻と列点があり、女性器を表現した可能性が高い。以上のことから、この人物は女性の点描表現と判断できる重要な絵画資料である。

刺突表現の絵画は半割竹管を用いた鹿が瓜生堂遺跡にあるものの、全体をハリ状工具の刺突で表現し、人物を描いたものは類例がない。

土製品の時期については、描かれた両手を挙げた人物表現が盛行する弥生時代中期後半に位置づけるのが妥当であり、包含層から出土した他の弥生土器とも矛盾はない。

参考資料（別紙参照） 1：唐古・鍵遺跡 2・3：清水風遺跡 4：瓜生堂遺跡

6. 東奈良遺跡の概要

東奈良遺跡は、現在の小川町、奈良町、新中条町、若草町、東奈良一～三丁目、美沢町、高浜町、天王一～二丁目、沢良宜西一～三丁目にかけて位置し、その範囲は東西約 1.0km、南北約 1.2km である。昭和 46 年（1971 年）に、地元の小中学生が工事現場で土器や石器を発見したことが契機となり、遺跡の存在が確認された。昭和 48 年に全国で 2 例目となる銅鐸鑄型が発見されるとともに、その鑄型で製作された銅鐸（香川県我拝師山銅鐸など）の存在が明らかとなり、生産のみならず、流通までも明らかとなった。その翌年には、唯一の完全な形を保った銅鐸鑄型が出土した。36 点の銅鐸鑄型のほかにも、銅戈やガラス勾玉の鑄型、送風管など大量の鑄造に関連する遺物が見つかり、弥生時代における一大

青銅器生産地であった。

また、北摂を代表する弥生時代の大規模集落であり、弥生時代前期から後期にかけての土器や石器、木器などの大量の遺物が出土するとともに、各時期の竪穴建物や方形周溝墓、環濠などが見つかっていることから、弥生時代を通じて、人々が住み続けていた遺跡であったと考えられる。

7. 有識者コメント

・辰巳 和弘 氏（元・同志社大学教授）

「羽振る女性シャーマンを描いた弥生絵画」

今回見つかった弥生絵画は、点描の技法を用いて人物の姿態を表現する類例のないユニークな描法である。類例としては、半割竹管による点描技法を用いたシカの土器絵画が東大阪市瓜生堂遺跡で出土しているのみである。

描かれた絵画は、鳥の羽ばたきに生命力の活性を重ね、豊穡の願いと病魔や悪霊退散を願う呪術的な所作である“羽振り”をおこなう女性シャーマンである。点描表現のなかで写実的な女性器の立体的表現は目を引くものであり、新たな生命誕生の聖処を技法を違え大きく表現している。豊穡と悪霊退散をいっそう強調するものであろう。

この土製品は霊符（霊験あるおふだ）や護符として使用された可能性があり、弥生時代の精神世界を知る貴重な資料と言える。

【問合せ先】

茨木市立文化財資料館

黒須・清水 072-634-3433